

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2004-287459(P2004-287459A)

【公開日】平成16年10月14日(2004.10.14)

【年通号数】公開・登録公報2004-040

【出願番号】特願2004-154001(P2004-154001)

【国際特許分類第7版】

G 10 H 1/00

G 10 H 1/043

G 10 H 1/053

G 10 H 1/30

G 10 H 1/38

【F I】

G 10 H 1/00 102Z

G 10 H 1/00 Z

G 10 H 1/043 A

G 10 H 1/043 Z

G 10 H 1/053 A

G 10 H 1/30

G 10 H 1/38 Z

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月10日(2004.9.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

奏法指定データを含む楽曲データを再生する再生ステップと、

前記楽曲データと奏法指定データとに基づいて楽音波形データを作成する楽音波形データ作成ステップとを有することを特徴とする楽音波形データ作成方法。

【請求項2】

演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、

奏法指定データを受信する奏法指定データ受信ステップと、

前記演奏情報に対して複数の音色から1つの音色を選択する音色選択ステップと、

各音色毎に異なる奏法に対応した奏法制御データであって複数の音色の少なくとも1つの音色について2つ以上の異なる奏法に対応した奏法制御データを記憶する記憶ステップと、

前記奏法指定データに応じて、前記選択された1つの音色に対応する奏法制御データの少なくとも1つを選択する奏法制御データ選択ステップと、

前記演奏情報と前記選択された奏法制御データに基づいて楽音波形データを作成する作成ステップと

を有することを特徴とする楽音波形データ作成方法。

【請求項3】

楽曲データの演奏情報を応じた奏法を指定するための第1の制御データ、該指定された奏法に応じて前記演奏情報のパラメータを加工するための第2の制御データ、前記指定さ

れた奏法に対応する波形を指定するための第3の制御データ及び複数の奏法にそれぞれ対応する波形を示すデータを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、

前記楽曲データに対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、

前記選択された音色データの前記第1の制御データに基づいて少なくとも1つの奏法を指定し、該指定された奏法に応じて前記第2の制御データ及び前記第3の制御データに基づいて前記楽曲データに対応する楽音波形データを作成する作成ステップと

を有することを特徴とする楽音波形データ作成方法。

【請求項4】

指定された奏法に応じて楽音の生成態様を制御するための第1の制御データ、及び指定された奏法に対応する波形形状を指定するための第2の制御データを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、

演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、

前記受信された演奏情報に対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、

前記選択された音色データの第2の制御データにより指定された形状で、且つ前記演奏情報に対応した楽音波形データを、前記選択された音色データの第1の制御データに基づいた生成態様で生成する生成ステップと

を有することを特徴とする楽音波形データ作成方法。

【請求項5】

イベントデータ及びその発生タイミングを示すタイミングデータから成る楽曲データと、奏法を示すと共に該奏法が適用される前記イベントデータの範囲を示す奏法コードとから成る楽音データを有する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、

前記楽音データのタイミングデータが示すタイミングで前記イベントデータの示すイベントを発生する発生ステップと、

該発生したイベントを適用範囲とする奏法コードが示す奏法を指定する指定ステップと、

前記発生したイベントと前記指定された奏法に応じた楽音波形データを作成する作成ステップと

を有することを特徴とする楽音波形データ作成方法。

【請求項6】

楽音再生装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体において、

前記プログラムは、

奏法指定データを含む楽曲データを再生する再生ステップと、

前記楽曲データと奏法指定データとに基づいて楽音波形データを作成する楽音波形データ作成ステップと

を前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項7】

楽音再生装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体において、

前記プログラムは、

演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、

奏法指定データを受信する奏法指定データ受信ステップと、

前記演奏情報に対して複数の音色から1つの音色を選択する音色選択ステップと、

各音色毎に異なる奏法に対応した奏法制御データであって複数の音色の少なくとも1つの音色について2つ以上の異なる奏法に対応した奏法制御データを記憶する記憶ステップと、

前記奏法指定データに応じて、前記選択された1つの音色に対応する奏法制御データの少なくとも1つを選択する奏法制御データ選択ステップと、

前記演奏情報と前記選択された奏法制御データに基づいて楽音波形データを作成する作

成ステップと

を前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項 8】

楽曲データの演奏情報に応じた奏法を指定するための第1の制御データ、該指定された奏法に応じて前記演奏情報のパラメータを加工するための第2の制御データ、前記指定された奏法に対応する波形を指定するための第3の制御データ及び複数の奏法にそれぞれ対応する波形を示すデータを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、

前記プログラムは、

前記楽曲データに対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、

前記選択された音色データの前記第1の制御データに基づいて少なくとも1つの奏法を指定し、該指定された奏法に応じて前記第2の制御データ及び前記第3の制御データに基づいて前記楽曲データに対応する楽音波形データを作成する作成ステップと

を前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項 9】

指定された奏法に応じて楽音の生成態様を制御するための第1の制御データ、及び指定された奏法に対応する波形形状を指定するための第2の制御データを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、

前記プログラムは、

演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、

前記受信された演奏情報に対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、

前記選択された音色データの第2の制御データにより指定された形状で、且つ前記演奏情報に対応した楽音波形データを、前記選択された音色データの第1の制御データに基づいた生成態様で生成する生成ステップと

を前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項 10】

イベントデータ及びその発生タイミングを示すタイミングデータから成る楽曲データと、奏法を示すと共に該奏法が適用される前記イベントデータの範囲を示す奏法コードとから成る楽音データを有する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、

前記プログラムは、

前記楽音データのタイミングデータが示すタイミングで前記イベントデータの示すイベントを発生する発生ステップと、

該発生したイベントを適用範囲とする奏法コードが示す奏法を指定する指定ステップと、

前記発生したイベントと前記指定された奏法に応じた楽音波形データを作成する作成ステップと

を前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする記憶媒体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

請求項3記載の楽音波形データ作成方法は、楽曲データの演奏情報に応じた奏法を指定するための第1の制御データ、該指定された奏法に応じて前記演奏情報のパラメータを加工するための第2の制御データ、前記指定された奏法に対応する波形を指定するための第3の制御データ及び複数の奏法にそれぞれ対応する波形を示すデータを含む、音色データ

の複数を記憶する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、前記楽曲データに対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、前記選択された音色データの前記第1の制御データに基づいて少なくとも1つの奏法を指定し、該指定された奏法に応じて前記第2の制御データ及び前記第3の制御データに基づいて前記楽曲データに対応する楽音波形データを作成する作成ステップとを有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項4記載の楽音データ生成方法は、指定された奏法に応じて楽音の生成態様を制御するための第1の制御データ、及び指定された奏法に対応する波形形状を指定するための第2の制御データを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、前記受信された演奏情報に対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、前記選択された音色データの第2の制御データにより指定された形状で、且つ前記演奏情報に対応した楽音波形データを、前記選択された音色データの第1の制御データに基づいた生成態様で生成する生成ステップとを有することを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

請求項5記載の楽音データ生成方法は、イベントデータ及びその発生タイミングを示すタイミングデータから成る楽曲データと、奏法を示すと共に該奏法が適用される前記イベントデータの範囲を示す奏法コードとから成る楽音データを有する楽音生成装置に適用される楽音波形データ作成方法であって、前記楽音データのタイミングデータが示すタイミングで前記イベントデータの示すイベントを発生する発生ステップと、該発生したイベントを適用範囲とする奏法コードが示す奏法を指定する指定ステップと、前記発生したイベントと前記指定された奏法に応じた楽音波形データを作成する作成ステップとを有することを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項8記載の記憶媒体は、楽曲データの演奏情報に応じた奏法を指定するための第1の制御データ、該指定された奏法に応じて前記演奏情報のパラメータを加工するための第2の制御データ、前記指定された奏法に対応する波形を指定するための第3の制御データ及び複数の奏法にそれぞれ対応する波形を示すデータを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、前記プログラムは、前記楽曲データに対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、前記選択された音色データの前記第1の制御データに基づいて少なくとも1つの奏法を指定し、該指定された奏法に応じて前記第2の制御データ及び前記第3の制御データに基づいて前記楽曲データに対応する楽音波形データを作成する作成ステップとを前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする。

【手続補正 6】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0015****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0015】**

請求項9記載の記憶媒体は、指定された奏法に応じて楽音の生成態様を制御するための第1の制御データ、及び指定された奏法に対応する波形形状を指定するための第2の制御データを含む、音色データの複数を記憶する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、前記プログラムは、演奏情報を受信する演奏情報受信ステップと、前記受信された演奏情報を対して前記複数の音色データから1つの音色データを選択する選択ステップと、前記選択された音色データの第2の制御データにより指定された形状で、且つ前記演奏情報を対応した楽音波形データを、前記選択された音色データの第1の制御データに基づいた生成態様で生成する生成ステップとを前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする。

【手続補正 7】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0016****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0016】**

請求項10記載の記憶媒体は、イベントデータ及びその発生タイミングを示すタイミングデータから成る楽曲データと、奏法を示すと共に該奏法が適用される前記イベントデータの範囲を示す奏法コードとから成る楽音データを有する楽音生成装置が読み取り可能なプログラムを記憶した記憶媒体であって、前記プログラムは、前記楽音データのタイミングデータが示すタイミングで前記イベントデータの示すイベントを発生する発生ステップと、該発生したイベントを適用範囲とする奏法コードが示す奏法を指定する指定ステップと、前記発生したイベントと前記指定された奏法に応じた楽音波形データを作成する作成ステップとを前記楽音再生装置に実行させることを特徴とする。

【手続補正 8】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0019****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0019】**

請求項3及び8の発明によれば、楽曲データに対して複数の音色データから1つの音色データが選択され、選択された音色データの第1の制御データに基づいて少なくとも1つの奏法が指定され、該指定された奏法に応じて第2の制御データ及び第3の制御データに基づいて楽曲データに対応する楽音波形データが作成されるので、自然楽器固有の各種奏法による音色変化を忠実に表現することが可能となる効果を奏する。